

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書①

施設所在地	江東区東砂3-28-1
施設名	マミー保育園東砂

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

色々な音を探そう！

〈テーマの設定理由〉

まずは音を探するため、自分の体も楽器になることを知り、体の音を探してみた。

2 活動スケジュール

- ①手拍子や足踏みを行い、自分の体から出る音を見つける。
- ②体から出る「さまざまな音」に名前をつけ、音が持つ性格を探求した。
- ③その音の性格を踏まえ、最後にボディパーカッションと共に「さんぼ」を歌った。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

ピアノ 自分の体

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

・自分の体を使い、手拍子や足を踏み鳴らす、体を叩いて音を出すなどの音を探した。その後、音の強弱に合わせてどんな音に感じるかを考えて、音の名前つけを行った。最後に、自分の体を楽器にして「さんぼ」の歌に合わせて音を出して歌った。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

たまたま女の子と男の子のチームに分かれる事となり、それぞれの個性が出る興味深い内容となった。男の子チームは、足を使用して鳴らすたく力強い足踏みを気に入り「戦いの音だ。」「大きなドラゴンの音みたい。」と話していた。女の子のチームは手拍子による元気のよい短い音を発見し、「鳥の羽ばたく音のよう。」「リスやうさぎがぴょんって跳ねる音みたい。」と表現していた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

少人数のグループに分かれてチームを編成したことで意見を伝えやすい・嗜好が似ているのでまとまりやすいなどの発見があった。その一方で、他者理解や多様性のある意見が出にくい可能性もあると感じたため、男女混合で様々な考えや意見があっても良いという姿勢で探求を続けていきたい。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書②

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

高い音・低い音を感じてみよう！

〈テーマの設定理由〉

楽器遊びが大好きで、日頃の保育活動の中でも音遊びを楽しんでいる。今回は、その音から発展して音の高い・低いを感じてみようというテーマを設定した。

2 活動スケジュール

- ①講師や保育士が鳴らした音を鍵盤ハーモニカで鳴らし、音の探索を行った。
- ②弾いた音が高いか低いか問いかけ、こども達に考えてもらう。その中で音からイメージする動物や感情を自ら考え、歌に乗せて表現した。
- ③大太鼓・小太鼓の音を聴き、高いか、低いかを考える

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

ピアノ・鍵盤ハーモニカ・大太鼓・小太鼓

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

2人一組で鍵盤ハーモニカを吹いたり、弾いたりした。小太鼓と大太鼓を用意し、音は「波」であり振動となって伝わってくるメカニズムを太鼓を通して肌で感じた。その後、音をイメージして歌をみんなで歌った。

- ・ピアノの音を聴き、「どこの音かな？高いかな？低い音かな？」と声をかけた。
- ・音の場所が分からない園児の傍に行き、音の場所を一緒に確認した。
- ・高い音、低い音を聴きどんな気持ちになるか？聴いてみる。
- ・最後に「優しい気持ちで、好きな人を思い浮かべて歌ってみましょう。」と、声掛けをしてから「ここのうた」を歌った。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

鍵盤ハーモニカでは、2人一組になり「吹くから、〇〇ちゃんは弾いてね。」などと話し合いながら、進んでいた。講師や保育士のピアノの音を聴き、「低い音はなんだか怖い感じがする。」「悲しい気持ちになるね。」と感想を伝えあっていた。ここのうたを歌う前に、「好きな人、お母さんやお父さんなどを思い浮かべながら歌ってみてね。」と伝えてから歌ってみたところ、優しい声でのびやかに歌うこども達の姿が見られた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

ピアノの音の階段(音階)を聴いた際にはこども達から「怖い音がする。」「なんだか、楽しそうな音だね。」などと、自然と声上がり、こども達の気づきや成長を感じた一面となった。こども達のやりたい気持ちを受け止めつつ、次回も少人数でグループ分けをしてこどもの声を拾いながら、全員が音や楽器に触れられるよう配慮していきたい。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書③

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

音の明るい・暗いと低いを感じてみよう。

〈テーマの設定理由〉

前回の高低差から、今回は明るい・低いの違いを知り、その音を聴いてどんな気持ちになるか表現してほしいため。

2 活動スケジュール

- ①講師や保育士が鳴らした音を聴き、どんな音でどう感じたか問いかける。
- ②感じた気持ちを順番に発表する。
- ③音を聴いて感じた気持ちや思いを、クレヨンを使い画用紙に表現する。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

ピアノ 画用紙 クレヨン

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

・ピアノの音を聴き、どんな気持ちになる？色に例えるとどんな色かな？などと問いかけ、発表してもらった。サン＝サーンスの「白鳥」、チャイコフスキー「くるみ割り人形」より行進曲、ベートーヴェン「運命」を聴き比べどんな気持ちになるか、感情を伝えてもらった。その後、「きらきら星」を長調と短調で聞き比べ、それぞれに絵に表した。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

講師や保育士の問いかけに積極的に発言する姿が見られた。感情を色で表現する際には、怒りや絶望を「赤」や「黒」で表現していた。暗い音を聴くと「なんだか切ない気持ちになるね。」「怒っているみたい」とそれぞれの音を聞き分けていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

発言や意見の出し合いもより多く見られるようになった。こども達の意見を受け止め認め合い、さらに意見を伝えあったりコミュニケーションを取れるようになっていきたい。そしてさらに探求心に繋げていきたい。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書④

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

音に表現力ってあるの？

〈テーマの設定理由〉

・前回、音を絵で表現したので、今回は歌にのせて音を表現してみようと思い、テーマに設定した。

2 活動スケジュール

- ①ピアノに合わせてリズム遊びを行った。
- ②リズムを体で表現する。
- ③にじの楽曲をどんな気持ちで歌いたいのか、付箋に書いてホワイトボードに貼って共有した。
- ④イメージ共有後、友だちと一緒に歌を歌ってみる。。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

ピアノ 付箋 ホワイトボード

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

最初はピアノに合わせて、四分音符・二分音符・八分音符を体で表現した。「嬉しい」「悲しい」「楽しい」と言った感情に乗せて歩いた。悲しい気持ちの時には背中を丸めて小さく歩き、楽しい気持ちの時には顔をあげ力強くステップする姿が見られた。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

以前よりも、少し難しいリズムに挑戦したが、こども達から「できるよ」「やってみたい」と積極的な姿が見られた。音がそろった際には、笑顔があふれ“仲間と気持ちがそろろう”ということの楽しさを全身で感じ取っているようだった。歌を歌う際には、「優しい気持ちで歌いたい」「お母さんや先生に聞かせたい」などの意見が出ていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

付箋に思いを書くことで、友達と共感したり発言しあういい機会となった。また同じ気持ちや意見を聞き共感する気持ちやチーム力が上がったように感じる。

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

音の重なりを聞いてみよう

〈テーマの設定理由〉

普段耳にしている音の重なりを感じてほしかったため、今回は音の響きに注目した。

2 活動スケジュール

- ①ピアノに合わせてリズム遊びを行った。
- ②パッヘルベルのカノンを題材に、まずは両手で弾いた音を聴き次に片手ずつ（右手・左手）に分けて音を聴き比較した。
- ③2人一組で鍵盤ハーモニカを使用し、三和音（三つの音）が同時に鳴る響きを探した。
- ④最後に、探した音に名前を付けたり絵を描いて記録し、探求学習のまとめを行った。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

ピアノ 鍵盤ハーモニカ クレヨン 画用紙

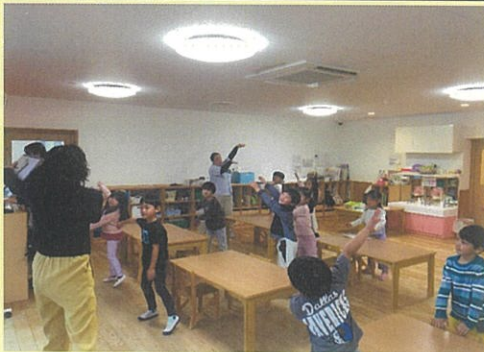
4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

ピアノに合わせて、四分音符・二分音符・八分音符を身体全体で表現した。パッヘルベルのカノンを題材に音の聞き分けを行った。後半は、2人一組で鍵盤ハーモニカを使用して、三和音（3つの音）が同時に鳴る響きを探した。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

リズム遊びでは、特に難しい二分音符の伸ばす感覚が定着し、安定してきていた。リズムカードを提示した際には「知ってる。」「こうだよね?」と自信をもった反応が増えた。パッヘルベルのカノンの音の聞き分けでは、左手の低音の音を聴き、「なんだか、怖い。」「寂しい気持ちがある。」といった声が上がった。右手のメロディの音では、「歌っているみたい。」「楽しくなってくる。」と音による変化を聴き分けていた。最後に両手を合わせて弾いてみると、「合わせたら怖くなった!」と音の印象が重なりで変化することを実感する時間となった。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

回を重ねるごとに、園児たちの意識に変化が見られ音をただ楽しむだけではなく、聴く→感じる→言葉にする→試す→共有するという姿勢が育って来ている。活動の中で友達の意見に深くうなづく場面や「この曲いい曲だね」「知ってる!」という声もあり、経験や音楽を通じた感性の交流が起り始めているように感じた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書⑥

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・いろいろな楽器の音を聞いてみよう。
- ・音に合わせて手作り楽器を鳴らしてみよう。

〈テーマの設定理由〉

ヴァイオリンやサクソ、クラリネットなど普段聴くことがない楽器の生演奏を聞く体験をする。

2 活動スケジュール

- ①クリスマスソングや山の音楽家などの演奏を聞き、いろいろな楽器の音を聴いてみる。
- ②クイズコーナーでクイズを通して楽器について知る。
- ③おもちゃのチャチャチャや、あわてんぼうのサンタクロースの曲に合わせて手作りマラカスを鳴らして、一緒にコンサートに参加し音を楽しむ。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

ピアノ、ヴァイオリン、サクソ、クラリネット、小太鼓、手作りマラカス、譜面台

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・1～2才児の第1部と、3～5才児の第2部に分けて、親子で楽しめるコンサートを行った。
- ・近隣の親子も招待し、たくさんの家族が参加してくれた。
- ・ピアノと2台のヴァリアン、サクソ、クラリネットという編成でウィンターワンダーランドやトルコ行進曲、クリスマスソングメドレーというプログラムを聴く。
- ・山の音楽家では生の音でそれぞれの楽器の音を聴いた。
- ・第2部ではピアノとヴァイオリンによるLet it GOの演奏があった。
- ・第2部では楽器にまつわるクイズコーナーで、楽器の由来や材質などを知ることができた。
- ・おもちゃのチャチャチャとあわてんぼうのサンタクロースに合わせて、手作りマラカスを鳴らして歌い、一緒にコンサートを楽しんだ。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

いつもの雰囲気とは違うステージに歓声や拍手が起り、とても感動している様子が伝わった。クイズコーナーではこども対大人の対決にしたので、とても盛り上がり楽しそうだった。マラカスを手に一緒に参加できるプログラムを用意したことで、一緒に歌いながら楽器を鳴らす体験ができた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

なかなか普段触れることのできない楽器の音を近くで聞くことによって、驚きや感動があった様子だった。本格的な演奏を生で聞くことができ、また保育士と一緒に演奏することによって、より身近に楽器の音を感じられたようで、保護者からも好評だった。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書⑦

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

「ベストフレンド」を気持ちを一つにして歌おう

〈テーマの設定理由〉

2月に発表会を控え、その時に「ベストフレンド」を唄うので、その際に気持ちを揃えて今までの園生活を思い出して歌ってほしかったため。

2 活動スケジュール

- ①まずはピアノに合わせてリズム遊びを行った。
- ②ベストフレンドに多く使われている符点のリズムを中心に行った。
- ③ベストフレンドを唄う時の気持ちを「あたたかい」「やさしい」「さみしい」「ほっとする」の4つの感情に分け、こども達にヒアリングを行った。
- ④感じた気持ちを一枚の絵に描いた。
- ⑤最後に「ベストフレンド」を歌う。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

ピアノ ホワイトボード クレヨン 画用紙

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

発表会の際にどんな気持ちで「ベストフレンド」を歌うか、こども達に問いかけた。あたたかい・やさしい・さみしい・ほっとするの4つの感情からヒアリングを行うと、「あたたかい気持ち」が最も多く挙がった。その後、感じた気持ちを絵に表現し、歌う前の心の準備を行った。最後に「ベストフレンド」を歌い、締めくくった。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

「ベストフレンド」をどんな気持ちで歌いたいかわきかけた際には、「楽しかった思い出が心の中にあってあたたかく感じる」と表現する園児が多くいてとても印象的だった。絵を描く活動では、歌詞やメロディから思い浮かんだ情景や友達の顔、楽しかった保育園での思い出を話しながら描いていた。歌う際には、「最後まで歌いたい!」「みんなで一緒に歌いたい」という声が多く聞かれた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

これまでのすくわくプログラムの積み重ねにより、音の高さ・低さ・明るさ・暗さ・リズムの違いなどをこども達自身が自然と感じ取り、表現する力が育っていると感じた。今回はそこに「気持ち」という要素が加わり音楽を聴く→感じる→思いを形にする→歌で表現するという、より深い学びへと繋がった回となった。

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

一年間のまとめ

〈テーマの設定理由〉

今までやってきたリズムあそびや音の重なり、ハーモニーを振り返って、歌で表現してみる。

2 活動スケジュール

- ①まずはピアノでリズム遊びを行った。
- ②前回描いた絵や気持ちを描きだした付箋を改めて振り返る。
- ③「どんな気持ちで歌うか。」再度、こども達に問いかけ考える時間を作った。
- ④最後に全員で「ベストフレンド」を歌った。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

ピアノ ホワイトボード 前回描いた絵 気持ちを書いた付箋

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

「どのような気持ちで歌うと、皆の歌になるのか」「どうすれば気持ちを一つにそろえるのか」をこども達自身が考え、感じ、試していく探索活動を行った。その後、以前描いた絵や付箋に書き出した気持ちを改めて振り返った。音楽の中で自分たちなりの答えを見つけていく時間を作った。最後は全員で「ベストフレンド」を歌い、締めくくった。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

「ベストフレンド」を歌う際にどんな気持ちで歌いたいかを問いかけると「優しい気持ち」や「楽しい気持ち」や「感謝の気持ちを込めて歌いたい」などの意見が挙がった。他の意見では「一緒にまだ遊びたい気持ちがある。」など長年ともに過ごした友達への思いがあふれていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

今回は一年間のまとめだったがクラス全員が最後まで意欲的に取り組み、誰一人出来ないやらないということもなく終えた。これまでの継続的な取り組みの成果が、こども達一人ひとりの中に確かな力として積み重なっていることを実感した。こども達が一人ひとりが「考えや思っている事を言葉に出して、認められ、自信をつける」といった、音楽を通して表現し探求する姿が随所に見られた一年となった。